

<全体分析>

試験時間

100分

解答形式

大問Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの読解総合はすべてマーク式で、大問Ⅳ・Ⅴの英作文は記述式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）※長文3題の総語数は、2,464から2,429になった  
 難易（易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴

長文問題の大問数は例年どおり3題で、設問数の36は2020年度と同じ。英文はここ数年のものと同様に読みやすく、設問にも紛らわしい選択肢は少ない。大問Ⅳは、2012年度以来出題されている短い和文英訳。大問Ⅴの自由英作文は、2012年度以来の形式を踏襲して、長文問題で出された英文の内容に基づき、与えられたテーマについて論じるものである。

その他トピックス

- ・2020年度の大問Ⅱで出題された、イタリック体を用いた意図を問うような設問は出題されなかった。
- ・大問Ⅲで、「発音の異なるペア」を選ぶ問題が出題された。
- ・大問Ⅳの和文英訳は、例年どおり、くだけた口調の対話文を英訳させるものである。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	読解総合	「顔認証システムが社会にもたらす広範な恩恵」 (716 words)	空所補充（内容一致は出題されていない）。空所前後の文脈把握力が試されているが、全体に素直な設問が多く、正解は決めやすい。7と9はともに仮定法の理解を問う問題であった。	やや易
II	読解総合	「顔認証システムがもたらす弊害—監視社会と人権侵害」 (776 words)	空所補充、内容一致、アクセント。大問Ⅰと同様、空所補充の選択肢は、単語または句とバラエティに富んでいるが、文脈に照らして判断すれば絞りやすい。21と22は、与えられた英文が、「Ⅰの英文の筆者が賛成するか」「Ⅱの英文の筆者が賛成するか」「両方の筆者が賛成するか」「どちらも賛成しないか」を推論する問題。	標準
III	読解総合	「自動運転車の普及で予想される、未来社会の光と影」 (937 words)	空所補充、内容一致、発音。ほとんどの設問で文脈を読み取る力が試されている。33と34は、与えられた英文が、「英文の筆者が賛成するだろうか」「反対するだろうか」「言及していないか」を判定する問題。	標準
IV	英作文	和文英訳（同じコンビニでバイトしている学生同士の会話）	2人の子の日本語での会話を英訳する。自然な口語体で書かれた問題文の日本語の意味を正確に理解し、的確な英語表現に置き換える柔軟性が必要であるが、例年に比べると書きやすい。	標準
V	英作文	自由英作文	(A)(B)のテーマのどちらかに関して、大問Ⅰ～Ⅲの長文で言及されている見解や事柄を引用しながら自分の意見を英文で論じる問題。なお、解答欄のスペースから見て、100～120語で書くのが適当だろう。例年に比べると、分量的に減少したことで、負担は軽減された。2018年度以降、「自分の意見と異なる見解に言及し、それに反論すること」という指示がある。	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## ＜学習対策＞

読解総合の問題では例年、合計で 2,500 語程度の英文を読まなければならないが、それほど読みにくい英文ではないので、標準レベルの難度で論理展開が明確な英文を選び、パラグラフを意識しながら手早く正確に内容を読み取る訓練をしておけば十分に対応できるだろう。なお、空所補充の設問で確実に正解を得るためには、基本的な語彙や表現に関する知識をマスターしておくことが必要。和文英訳は、日常的なだけでなく表現も視野に入れて、友人や家族、同僚同士の対話文のサンプルに数多く触れ、役立つと思われる表現を数多く記憶し、それらを使いこなす練習をしておくこと。自由英作文に関しては、意見論述型を演習しておく必要がある。長く書くほどスペリングミスをはじめケアレスミスが多くなりがちなので、無理に語数を増やそうとするのではなく、自分が正しく使える表現を用いて、内容に破綻のない英文を書けるようにすること。